令和元年　９月　１２日

# 平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

## 【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第２学年 | 国語　１２０人 | 社会　１１９人 | 数学　１２０人 |
| | 理科　１２０人 | 英語　１２０人 | |

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

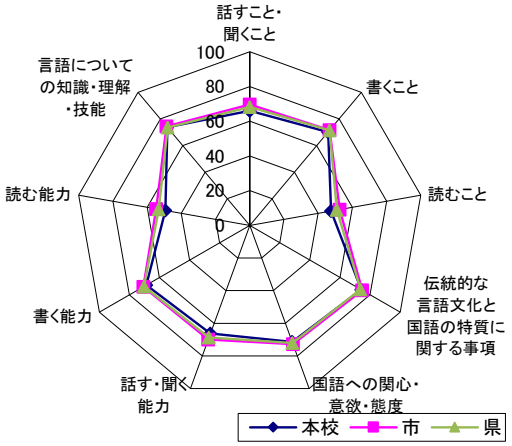
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立国本中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 66.0 | 69.6 | 68.2 |
| | 書くこと | 70.2 | 71.7 | 71.5 |
| | 読むこと | 47.6 | 52.6 | 51.0 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 74.2 | 74.8 | 73.7 |
| 観点 | 国語への関心・意欲・態度 | 71.4 | 72.8 | 72.1 |
| | 話す・聞く能力 | 66.2 | 69.9 | 68.7 |
| | 書く能力 | 68.8 | 70.7 | 70.3 |
| | 読む能力 | 49.4 | 54.7 | 53.1 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 73.8 | 74.5 | 73.5 |




## ★指導の工夫と改善

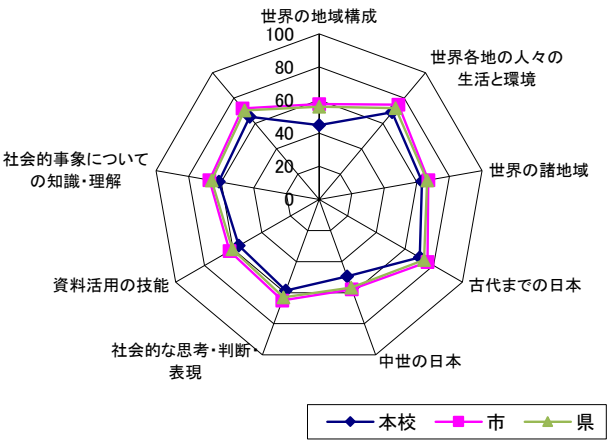
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 話すこと・聞くこと | ○話し合いの内容を聞き取る問題では、話の話題と相手の発言に注意しながら内容を正確に聞き取ることができている。<br>●全体としての正答率は、市の平均を3．6ポイント、県の平均を2．2ポイント下回っている。話の構成を工夫して、相手に分かりやすく伝えることの正答率が低い。 | ・聞き取ることは得意だが、話すこと、特に人前で言いたいことを発表することが苦手な生徒が多い。国語の授業を中心に、学級活動などでも、発表や発言のしかたを訓練するとともに、聞いている人の興味や関心を高め、分かりやすい話し方を工夫する活動を取り入れていく。 |
| 書くこと | ○ポスターの表現の特徴を書く、また自分の考えと根拠を明確にして書く問題では、県の平均を2ポイント上回っている。<br>●全体としての正答率は、市の平均を1．5ポイント、県の平均を1．3ポイント下回っている。資料を作成し、発表する領域をまたぐ問題において、文章構成について意見を述べることの正答率が低い。 | ・授業の中に小作文や短作文を書かせる作業を取り入れて、内容をまとめたり自分の意見や考えを作文したり推敲したりする習慣を身につけさせる。また、条件に沿った文章が書けるように、型やモデルを示すなど指導を工夫していく。 |
| 読むこと | ○文学作品の場面の展開を捉える問題の正答率は県平均を1．7ポイント上回っている。<br>●全体としての正答率は、市の平均を5．0ポイント、県の平均を3．4ポイント下回っている。特に説明文の展開に即して内容を捉え、その内容を整理する問題の正答率が低い。 | ・授業の中で文章の展開に即して内容をとらえる作業に重点を置きながら、接続詞に注目して要旨をとらえる方法や指示される内容を理解する力を継続して身につけさせる。<br>・朝の読書やブックトークにより読書習慣は多くの生徒に身に付いている。今後も多彩な作品に触れていく機会を設けていく。 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○全体としての正答率は、県の平均を0．5ポイント上回っている。既習漢字の読みの正答率は概ね80ポイントを上回り、書きの正答率も県を上回っているものが多い。文節の関係についての理解は県の正答率を10．3ポイント上回っている。<br>●全体としての正答率は、市の平均を0．6ポイン下回っている。特に単語についての理解に課題がある。 | ・「読めるけど書けない」。小学校での既習漢字を含め、学年配当の漢字を継続的に練習し、確認テストをすること、漢字練習帳の提出を習慣化することで定着を図る。<br>・文法に苦手意識を持っている生徒が多いので、授業に興味を持ち、意欲的に取り組めるような工夫をするとともに、反復練習させることで定着を図る。 |
| | | |

# 宇都宮市立国本中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 世界の地域構成 | 44.8 | 57.6 | 56.0 |
| | 世界各地の人々の生活と環境 | 68.7 | 74.6 | 71.9 |
| | 世界の諸地域 | 63.1 | 67.0 | 66.3 |
| | 古代までの日本 | 70.2 | 75.7 | 73.3 |
| | 中世の日本 | 49.6 | 57.9 | 56.7 |
| 観点 | #REF! | 58.7 | 65.0 | 63.0 |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 56.0 | 62.5 | 60.5 |
| | 資料活用の技能 | 61.5 | 67.2 | 65.9 |
| | 社会的事象についての知識・理解 | 65.2 | 71.8 | 70.1 |




## ★指導の工夫と改善

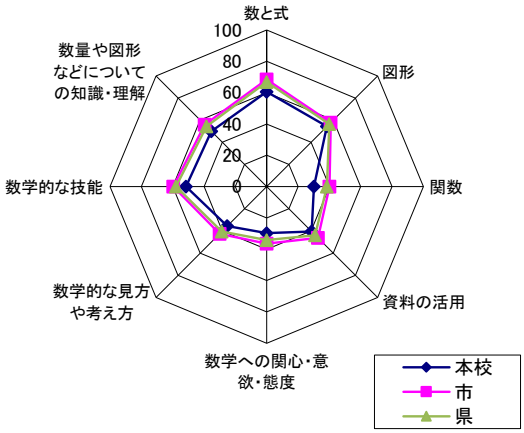
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 世界の地域構成 | ○前年度は「地理的分野」としての正答率であったため単純比較はできないが、前年度の「地理的分野」の正答率は57．6%であったのに対し、本年度の地理的分野である3領域の正答率を平均すると、前年度を1．2ポイント上回った。<br>●全体としての正答率は、市の平均を12．8ポイント、県の平均を11．2ポイント下回り、特に世界の地域区分や地図の特色に関する問題の正答率が低い。 | ・さまざまな地図を利用し、基本となる世界の地域区分を地図上で示せるような学習をより多く取り入れる。<br>・目的に合わせてさまざまな種類の地図があることを理解させ、それらの地図を活用する学習をより多く取り入れる。 |
| 世界各地の人々の生活と環境 | ○世界の宗教分布の理解をもとに、生活の様子を把握する問題の正答率は90ポイントを上回った。<br>●正答率は、市の平均を5．9ポイント、県の平均を3．2ポイント下回り、特に複数の資料から適切な答えを導き出す「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い。 | ・複数の資料を組み合わせて考え、それを言葉や文章に表現する学習をより多く取り入れる。 |
| 世界の諸地域 | ○世界の各州の地形に関する問題の正答率は80%を上回った。<br>●全体としての正答率は、市の平均を3．9ポイント、県の平均を3．2ポイント下回り、特にアジアやアメリカ合衆国の産業での「資料活用の技能」や「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い。 | ・グラフや図表など、さまざまな資料を活用して産業の特色を理解させる学習をより多く取り入れる。 |
| 古代までの日本 | ○前年度は「歴史的分野」としての正答率であったため単純比較はできないが、前年度の「歴史的分野」の正答率は53．6%であったのに対し、本年度の歴史的分野である2領域の正答率を平均すると、前年度を6．3ポイント上回った。<br>○縄文時代に関する問題の正答率は90%を超え、県の平均を上回った。<br>●全体としての正答率は、市の平均を5．5ポイント、県の平均を3．1ポイント下回り、特に古墳時代までの「思考・判断・表現」や「知識・理解」に関する問題の正答率が低い。 | ・古墳時代までの歴史の理解度を高めるために、重要語句を覚えるための反復学習をより多く取り入れる。<br>・複数の資料を組み合わせて考え、それを言葉や文章に表現する学習をより多く取り入れる。 |
| 中世の日本 | ●全体としての正答率は、市の平均を8．3ポイント、県の平均を7．1ポイント下回り、「古代までの日本」よりも正答率が低い。特に文章で説明する問題の正答率は低い。 | ・重要語句を覚えるための反復学習をより多く取り入れる。<br>・複数の資料を組み合わせて考え、それを言葉や文章に表現する学習をより多く取り入れる。 |

# 宇都宮市立国本中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と式 | 60.5 | 68.4 | 66.8 |
| | 図形 | 54.3 | 57.8 | 56.5 |
| | 関数 | 30.2 | 40.1 | 38.5 |
| | 資料の活用 | 40.6 | 46.3 | 43.8 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度 | 29.7 | 36.4 | 34.1 |
| | 数学的な見方や考え方 | 35.7 | 42.5 | 40.5 |
| | 数学的な技能 | 51.5 | 59.6 | 57.9 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 49.9 | 56.0 | 54.3 |




## ★指導の工夫と改善

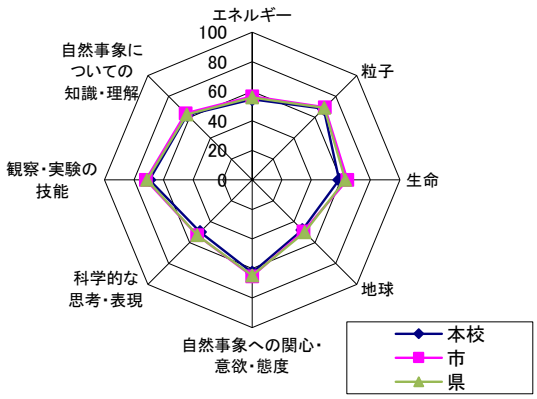
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と式 | ○正の数、負の数の正解率が高い。<br>●全体としての正答率は、市の平均を7.9ポイント、県の平均を6.3ポイント下回っている。特に、1次式など文字が入ってくるとつまずいている。 | ・移項による符号の変形など、もう一度重点的にやって身につけさせる。<br>・計算技能の定着を図るために、演習時間を確保していく補助プリントを活用する。 |
| 図形 | ○空間図形に関する問題に対して正解率が高い。<br>●全体としての正答率は、市の平均を3.5ポイント、県の平均を2.2ポイント下回っている。面積や長さを求める図形の計量の正解率が低い。 | ・今後の図形の証明を扱う際には、移動と合同など基本的な図形の性質を振り返りつつ、パターン的な反復練習を取り入れる。<br>・デジタル教科書を用いて、視覚的に理解を深めさせる。 |
| 関数 | ○比例、反比例の基礎的な問題はできている。<br>●全体としての正答率は、市の平均を9.9ポイント、県の平均を8.3ポイント下回っている。県と市の平均を大きく下回っている。関数についての理解ができていない。<br>●基本的な用語の意味（求めたいもの）が分からないため、解決のための手立てが見いだせない。 | ・1次関数の学習時に1年生での、比例・反比例についてよく復習しながら学習していく。<br>・グラフのもつ意味や見方、表とグラフの関係などの理解を深めさせていきたい。また、基礎的な用語の意味についても繰り返し押さえたい。 |
| 資料の活用 | ○資料から読み取る力はある。<br>●全体としての正答率は、市の平均を5.7ポイント、県の平均を3.2ポイント下回っている。読み取ったものを表現していく力は乏しく、今後の課題になってくる。 | ・今後の確率では、文章を読み取って場面を把握する力が必要であるため、樹形図やパターン分けなど順序よく考えて分かりやすくする方法について指導する。 |
| | | |

# 宇都宮市立国本中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | エネルギー | 54.6 | 56.6 | 55.8 |
| | 粒子 | 68.3 | 69.6 | 69.0 |
| | 生命 | 58.8 | 64.4 | 63.0 |
| | 地球 | 47.9 | 49.2 | 50.2 |
| 観点 | 自然事象への関心・意欲・態度 | 62.7 | 65.2 | 64.7 |
| | 科学的な思考・表現 | 49.9 | 52.8 | 52.8 |
| | 観察・実験の技能 | 69.6 | 72.0 | 71.2 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 62.2 | 63.7 | 62.7 |




## ★指導の工夫と改善

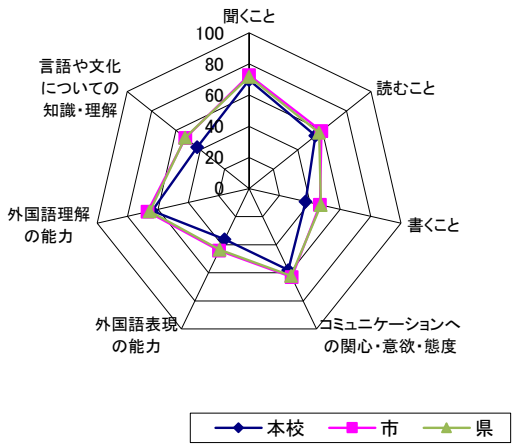
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| エネルギー | ○圧力と面積の関係や音の高さと振動数の関係について、日ごろの生活体験や理科の授業での体験を通して理解することができたと考えられる。そのため県の平均点と比較して9.8ポイント高くなっている。<br>●全体としての正答率は、特に計算して物理量を求める問題で低くなっている。数学の平均点が低くなっていることにも関連があると考えられる。 | ・日ごろから生徒の生活体験をもとに考えさせ、理科と日常生活が結びつく学習を意識していくことで、わかりやすく考えさせることができ、学習の定着度も上がると考えられる。<br>・物理量を計算で求める際に、物理量を言葉で説明させることで、物理量同士の数的関係についてじっくり考えさせることが必要である。 |
| 粒子 | ○本分野の校内平均はほぼ県の平均点と並んでおり、中でも実験結果から気体の名称を考える問題では91.7%の生徒が正解することができた。<br>●全体としての正答率は、県の平均点とほぼ並んでいるが、気体を粒子のモデルと結び付けて考える問題では県平均点と比べて11.3ポイントと極端に低くなった。 | ・目に見えない事象や現象について、モデルを使って考え説明したり、身近な例に例えて説明したりする活動を多く取り入れていき、粘り強くじっくり考えさせる必要があると考えられる。 |
| 生命 | ○植物の体の特徴から植物の種類を分類する問題の正答率は比較的高くなった。<br>●全体としての正答率は、県や市の平均点と比較すると4ポイント以上低くなっている。本分野の平均点は、ほかの領域と比べても、県や市との差が大きい。 | ・適宜実験を行い実験結果の印象を持たせることで学習の定着が高くなっていくと考えられる。<br>・特に基本事項は定期的に小テストを行うなどしてこまめに定着度の確認をする必要がある。 |
| 地球 | ○本分野において化石から年代を調べる問題の正答率は県の平均点と比べ9．2ポイント高くなった。これは中学生にとって覚えやすい語呂合わせを使うことで学習の定着が高くなったことが要因の一つであると考えられる。<br>●全体としての正答率は、県平均点と比較すると2．3ポイント、市の平均と比較すると1．3ポイントと、やや低くなっている。これは地質分野の問題の正答率が低いことに起因している。 | ・基本事項は定期的に小テストを行うなどしてこまめに定着度の確認をする必要がある。<br>・理科の事象や現象について日ごろから言葉にして説明することを心掛けることが大切である。 |
| | | |

# 宇都宮市立国本中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県，市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 聞くこと | 69.7 | 72.8 | 71.8 |
| | 読むこと | 54.4 | 59.4 | 57.5 |
| | 書くこと | 37.1 | 46.6 | 47.3 |
| 観点 | コミュニケーションへの関心・意欲・態度 | 58.0 | 63.0 | 62.2 |
| | 外国語表現の能力 | 36.2 | 44.2 | 43.6 |
| | 外国語理解の能力 | 63.8 | 66.8 | 65.4 |
| | 言語や文化についての知識・理解 | 42.6 | 52.3 | 52.5 |




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 聞くこと | ○絵に合う動作や場所を表す英文や、場面を説明している英文の要点を聞き取ることが良くできていた。<br>●全体としての正答率は、市の平均を約3ポイント、県の平均を約2ポイント下回っている。特に、対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題の正答率が低かった。 | ・スモールトークなどの活動を増やし、英語での対話に慣れ親しませていく。<br>・ALTと協力して音読やリスニングの活動を積極的に取り入れ、英語を聞くことに慣れ親しませるとともに、聞いた内容を理解し、自己表現につながるように指導をしていく。 |
| 読むこと | ○英語で書かれたメールの内容を理解する問題は良くできていた。また、英文を読んでその流れをもとに、適切な語を選ぶ問題もできていた。<br>●全体としての正答率は、市の平均を約5ポイント、県の平均を約3ポイント下回っている。特に、語形・語法を理解する問題の正答率が低かった。 | ・英文を読む活動を継続的に取り入れ、英文を読み理解することに慣れ親しませる。<br>・英文に使われている語形・語法について、丁寧に解説し、内容理解の手助けになるようにアドバイスしていく。。 |
| 書くこと | ○現在進行形や命令文の単語を並べかえ、正しい文にして書く問題については、おおむね県の正答率に達していた。<br>●全体としての正答率は、市や県の平均を約10ポイント下回っている。特に単語を正しく書く問題については、正答率が低かった。 | ・英語を書くことに苦手意識を感じている生徒が多いので、継続的に英語を書く活動を取り入れていく。<br><br>・家族や友人、自分の趣味など書きやすいトピックを活用し、短い英文を書くところからスタートして、徐々に量を増やし、英語を書くことに自信をつけさせる。 |
| | | |

# 宇都宮市立国本中学校 第２学年 生徒質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

1　傾向

○家庭で学校の授業の予習をしている生徒は49．2%と高い。また、家庭で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている生徒の割合も、65．0%と高い。また、学習塾に通っていない生徒は市町村の割合より低いが、1日当たり2時間以上勉強する生徒は13．9ポイント高い。これは、自主学習を毎日提出する成果が出ている。今後は、家庭学習が定着している生徒にはさらに学習の工夫を促し、家庭学習が定着していない生徒には、1学年に戻って復習できる教材の紹介をするなど、学習相談の機会を設けていきたい。

○友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒の割合は、市町村の割合より6．2ポイント高い。また、人と話すことが楽しい生徒の割合は、市町村より8．3ポイント高い。このことから、友だちとの話し合いを楽しめる雰囲気があると考えられる。今後も継続して指導していきたい。

○家の人と学校のできごとについて話をしている生徒や、自分は家族の大切な一員だと思う生徒の割合が市町村より高い。保護者との関係が良く、安心して生活している様子がうかがえる。今後も継続して学年だより等で情報を発信していきたい。

●勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある生徒は市町村より15．2ポイント低い。また、本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている生徒は、市町村より10．0%ポイント低い。学習への興味関心が薄い生徒が多いので、それらを高めることができる授業の工夫が必要である。

●授業では自分の考えを発表する機会が与えられている生徒が13．9ポイント低い。また、授業の中で、目標が示されている生徒の割合が市町村の割合より22．2ポイント低い。また、授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている生徒の割合が、いずれも市町村の割合より11．8ポイント低い。授業者は、授業の目標の提示・振り返りの時間の確保を確実に行い、発表の機会を増やす必要がある。

●携帯電話やスマートフォンを持っていない生徒の割合は、市町村の割合より11．5ポイント低いので、ネットトラブルについての学級活動や集会を行う。

●自分にはよいところがあると思う生徒の割合は、市町村の割合より10．9ポイント低い。自己肯定感が低い生徒が多いと思われるので、学校生活全体を通して生徒を励ましたり褒めたりするチャンスを逃さないようにする。

# 学力向上に向けた学校全体での取組

## ★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| ・学習強化週間の実施 | ・学習強化週間の実施<br>定期テスト前の１週間、家庭学習ノートを毎日提出し、学習状況を確認する。<br>中間定期テストの３日前、期末テスト・学年末テストの４日前より学習相談を実施。 | ・学習相談に参加する生徒の数が増えてきた。また、単なる自習ではなく、学習相談を積極的に活用するよう促したことによって、積極的に質問する態度が見られるようになった。 |

## ★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|---|---|
| 授業の中で、目標が示されている生徒の割合が市町村の割合より22．2ポイント低い。また、授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている生徒の割合が、いずれも市町村の割合より11．8ポイント低い。 | 授業における目標・まとめ・振り返りの充実 | 授業の最初に目標を、最後に振り返りを生徒のノートに書かせる。 |